



記事は Web 上でも読むことができます：

Tuci Tre Online 新聞 (ベトナム語)	http://tucitre.vn/tin/song/khoe/20150104/me-nha-cua-benh-nhi-ung-thu-bue/604481.html
Tuci Tre News (英語)	http://tucitrenews.vn/features/26177/the-loving-japanese-mother-to-lose-cancer-child-patients
THANH NIEN News (英語)	http://www.thanhniennews.com/lost/1076950-one-japanese-woman-who-changed-cancer-for-vietnamese-children-37196.html
VIETNAM ベトナムニュース (日本語)	http://www.vietnamnews.vn/social/151010/7093509-1.html



Asian Children's Care League

Cure and Care of Childhood Cancer

"connecting with hope for the future"



■ The Japanese Journal of Pediatric Hematology/Oncology vol. 52(3): 199-206, 2015

【第56回日本小児血液・がん学会学術集会】特別講演

国境を越えた小児がんのケア&ケア：グローバルアクションとチャレンジ

渡辺 和代*

NPO法人アジア・チャイルドケア・リーグ

要 旨

小児がんの治療は日々進歩し、現在では4人に3人の子どもの命が治る時代になった。しかしこれは適切な診断・治療を受けられた場合である。全世界で毎年発症する小児がん患者の約8割は、適切な治療・ケアにアクセスできず、多くの尊い子どもたちが命を落としている。国や地域で医療の格差が生じている要因として、診断・治療の遅れ、治療中断・拒否、さまざまな資源の不足、感染予防などの治療環境の不備、社会経済的な理由が挙げられる。問題は複層的である。よって、ダイバーシティ・ホリスティックな視点を持ち、医療面と同時に社会・経済・福祉・文化・習慣面から地域に根ざした事業を展開する必要がある。

国際協力において、現場の実情を正しく理解し、ステークホルダーのニーズを把握することは欠かせないプロセスである。その上で、ヒト・モノ・カネ・情報、そして時間という資源の面から計画立案、実行、評価、フォローアップを実施していくことになる。そこで何より大切なことはコミュニケーションであり、知識・経験の共有、課題解決へのアイデア創出が、真の国際貢献につながると思われる。

国・経済力・家庭環境にかかわらず、適切な診断・治療・ケアが確実に提供され、ひとりでも多くの小児がんの子どもたちが笑顔で成長していくことを願ってやまない。そのためには、途端と実践を積み重ね、日本が持ち合わせた資源を総動員し、積極的かつ協調的な国際協力の体制を推し進めていくことが求められる。

キーワード：小児がん、国際協力、途上国、協働、グローバルアクション

Key words: childhood cancer, international cooperation, developing countries, collaboration, global action

I. はじめに

第56回日本小児血液・がん学会学術集会のテーマ：「DomesticからGlobalへ～break throughを求めて」は、まさに私自身もアジアでの小児がんの活動を通して日々直面している課題である。活動の地域を日本に限定しなかった理由を尋ねられることがあるが、私は高校時代をアメリカで過ごした経験があり、日本人であると同時に、自分はアジア人であるというアイデンティティが自然と育まれる環境にあったと思う。アジアをフィールドに置いた活動に至ったのも自然な流れであった。

“breakthrough”とは、一見、困難な局面を打開する、突破するというイメージを抱きがちだが、古い定義の中には、“change, a dynamic, decisive movement to new, higher levels of performance”¹⁾、ビジネス用語としても“highly significant or dramatic invention or improvement in performance”²⁾

achieved through consistent, focused, and synergic efforts”³⁾と定義されている。国際協力においても、breakthroughはまさに創造的、革新的というポジティブなプロセスから導かれ、関わる人々によって相乗効果が生まれるものではないかと活動を通して実感している。つまり、breakthroughはある環境の中で何かを解決、達成したいという強い意識を行動にうつして起こる現象であるといえる。よって、ベトナム中部での取り組みを通して、環境、意識、行動という3つの側面から国際協力の課題について提示したい。

II. 3つのC: circumstance, consciousness, challenge

活動の使命である「協働を通じた小児がんのケアとケア」(cure and care of childhood cancer through collaboration)のように、不思議と“と”から始まるコトバに囲まれている。今回はbreakthroughのための必要要素：環境・意識・行動というさらに3つの“と”が加わった。つまりcircumstance: アジア途上国での小児がんをとりまく現場・現実、いわゆる環境について、次に、consciousness: 国際協力における強い問題・課題意識について、そして最後にchallenge:

doi: 10.1141/jjpho.52.199

2015年7月25日受付、2015年7月25日受理

* 原稿請求先: 〒103-0014 東京都中央区日本橋郵便町1-36-6-601

NPO法人アジア・チャイルドケア・リーグ 渡辺和代

E-mail: accl@accl.jp